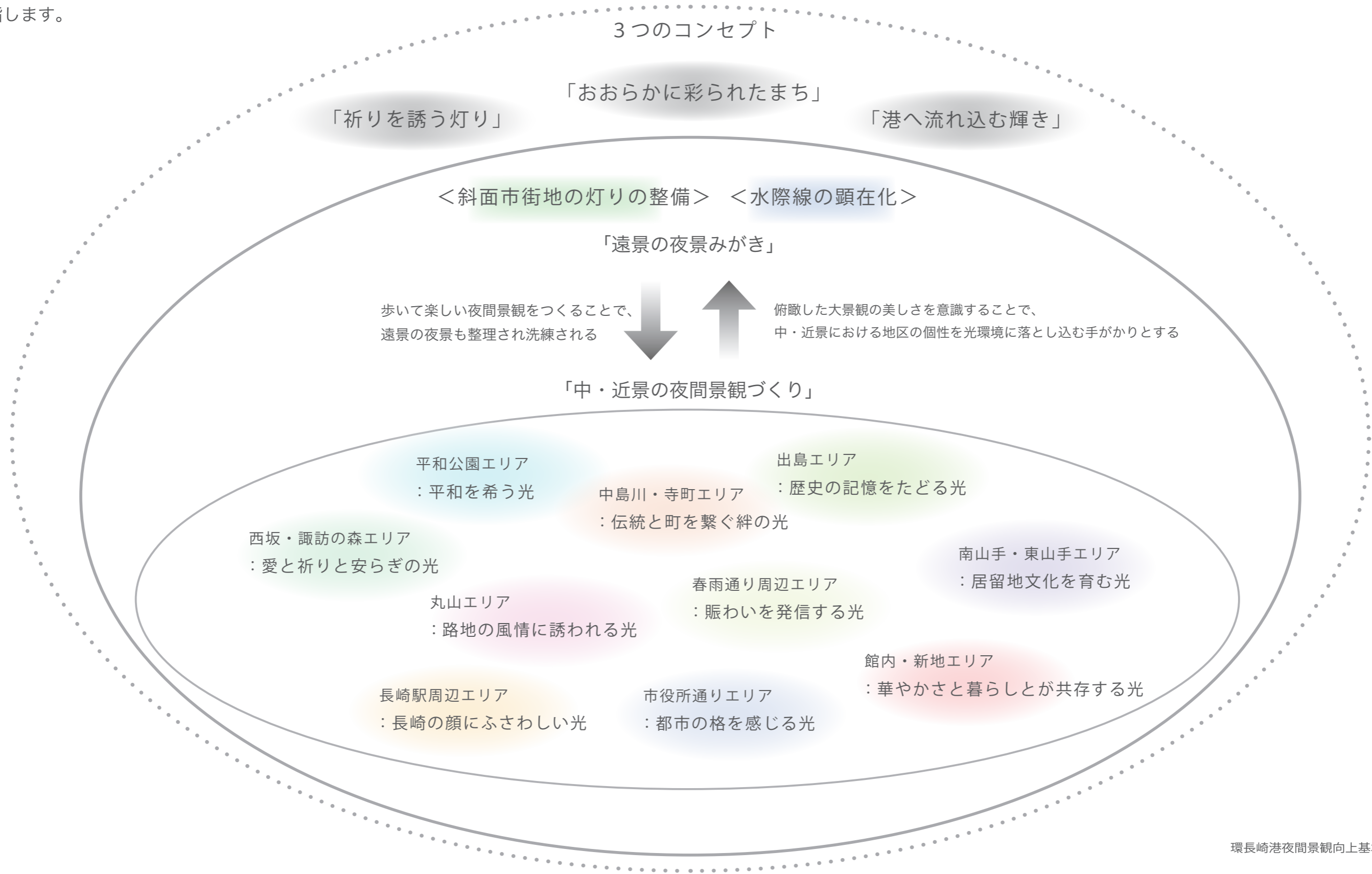


4. 夜間景観向上のためのガイドライン

4-1. 全体の考え方

コンセプトに基づき、遠景の夜景の魅力をもっと高めるための「遠景の夜景みがき」と、「長崎さるく」に代表されるまち歩きを夜間においても高めるという視点から、「中・近景の夜景づくり」に取り組めます。

遠景と中・近景の夜景が相互補完的に高め合うことで、夜間景観の向上を目指します。



主要な視点場 1：稲佐山展望台：

引いた視線の、絵画のようなパノラマ夜景

= 「全体」を見る夜景

稲佐山からの夜景は最も有名であり、市民にとっても馴染み深い夜景です。

市街地の構造を広大なパノラマとして眺めることができるため、まちの豊かな表情を光で表現することで、より魅力的なパノラマ夜景を演出をすることができます。



特長

- ・市街地の灯りを真正面から広がるパノラマで眺めることができる。
- ・市街地の灯りの前に、長崎港や浦上川といった水面が横に広がっており、港町らしい水際線を感じやすい。

課題

- 斜面市街地の灯りが夜景に直結するが、近年、空き家や空き地が増加している。
- 水面に映り込む光の要素が少ない。

主要な視点場 2：鍋冠山展望台

近接した視線による、親密さと奥行きがある夜景

= 「個々」が見える夜景

鍋冠山展望台のように、市街地近郊に良好な視点が存在するのは、すりばち状の地形を有する長崎ならではの特徴です。長崎らしい夜景を考える上で、このような「市街地の高台」からの視線も大切です。風頭公園や立山公園、グラバースカイロードなど、街に近い視点場は数多く存在します。



特長

- ・眼下にまちの灯りが連続し、迫力と遠近感を感じることができる。
- ・稲佐山鉄塔や女神大橋などの、ライトアップされたランドマークがよく見える。

課題

- 対岸の斜面市街地が暗く感じられる。
- 対岸の水面に映り込む光が少なさが目立つ。
- 市街地に近いため、グレアを感じやすい。

・ 斜面市街地の灯りの整備

斜面市街地は、その大部分が住宅地で占められており、生活の光は夜景の重要な要素のひとつです。しかし、近年の空き家や空き地の増加などの影響により、実際には防犯灯や道路照明といった公共の照明が主体となっています。斜面地市街地の灯りを強化するためには、様々な工夫を行いながら取り組みを進めていく必要があります。

1. 長崎らしい街路照明（長崎灯）の整備

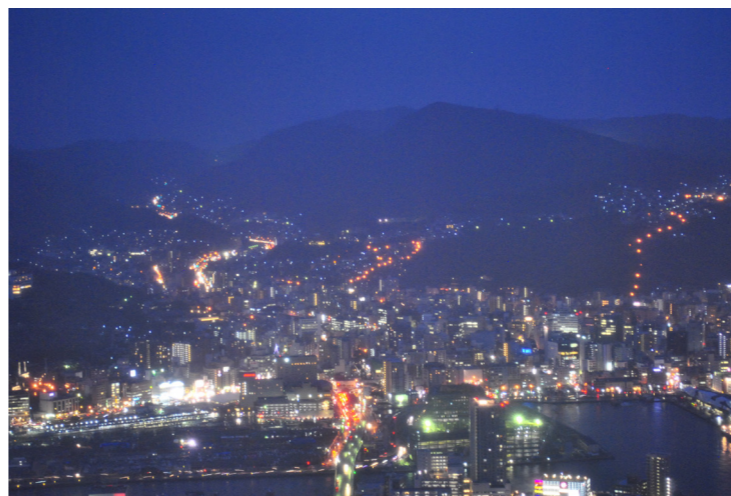
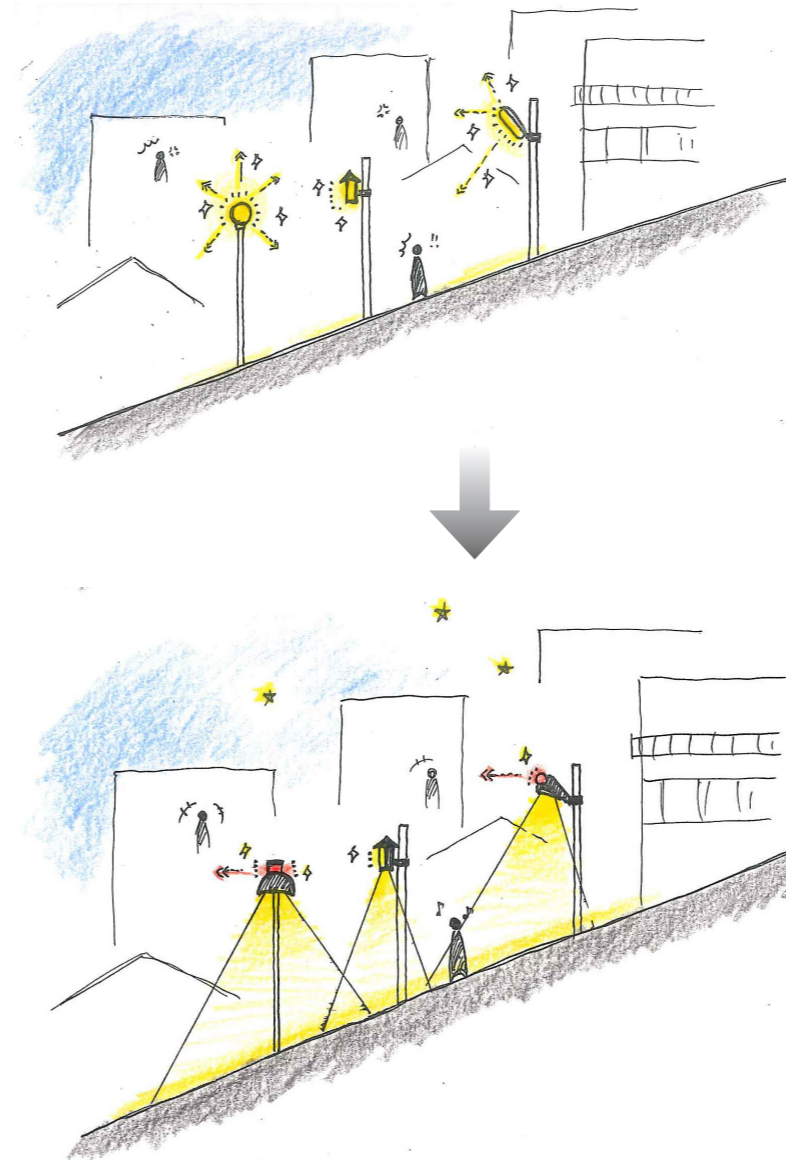
斜面市街地の防犯灯は、長崎夜景の主要な構成要素となっています。「長崎における都市照明の7つの視点」をもとに、遠景の夜景をより魅力的にする、長崎ならではの照明づくりに取り組みます。

2. アクセントとなる道路照明整備

夜景の魅力向上につながる道路照明については、照明の色温度を統一し、防犯灯の灯りに対して「線」として浮かび上がらせることで、夜景のアクセントとします。

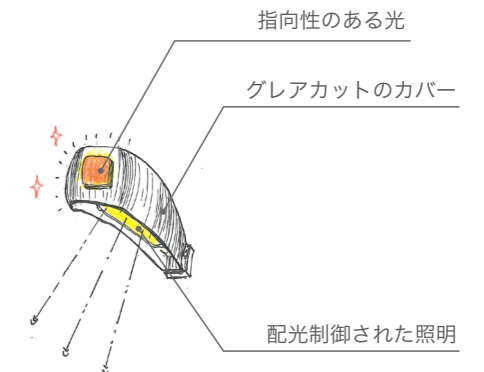
3. ランドマークのライトアップ

施設の意義や斜面地ならではの見え方を考慮して、必要なものについてはライトアップを行います。



【現状の防犯灯】

明るさのみが重視され、グレアを発生しています。遠景での輝度は十分ですが、光の粒が大きく、大味な夜景となっています。



【長崎灯のイメージ】

グレアをなくし、路面を効率良く照らしつつ、魅力的な遠景に繋げていくことが求められています。そのため、既存の防犯灯のまぶしさを抑えると同時に、遠景に輝度感を与えるカバーの設置など、長崎の斜面地ならではの手法を検討し、実施します。

【色温度の違いによる街路照明のアクセント】

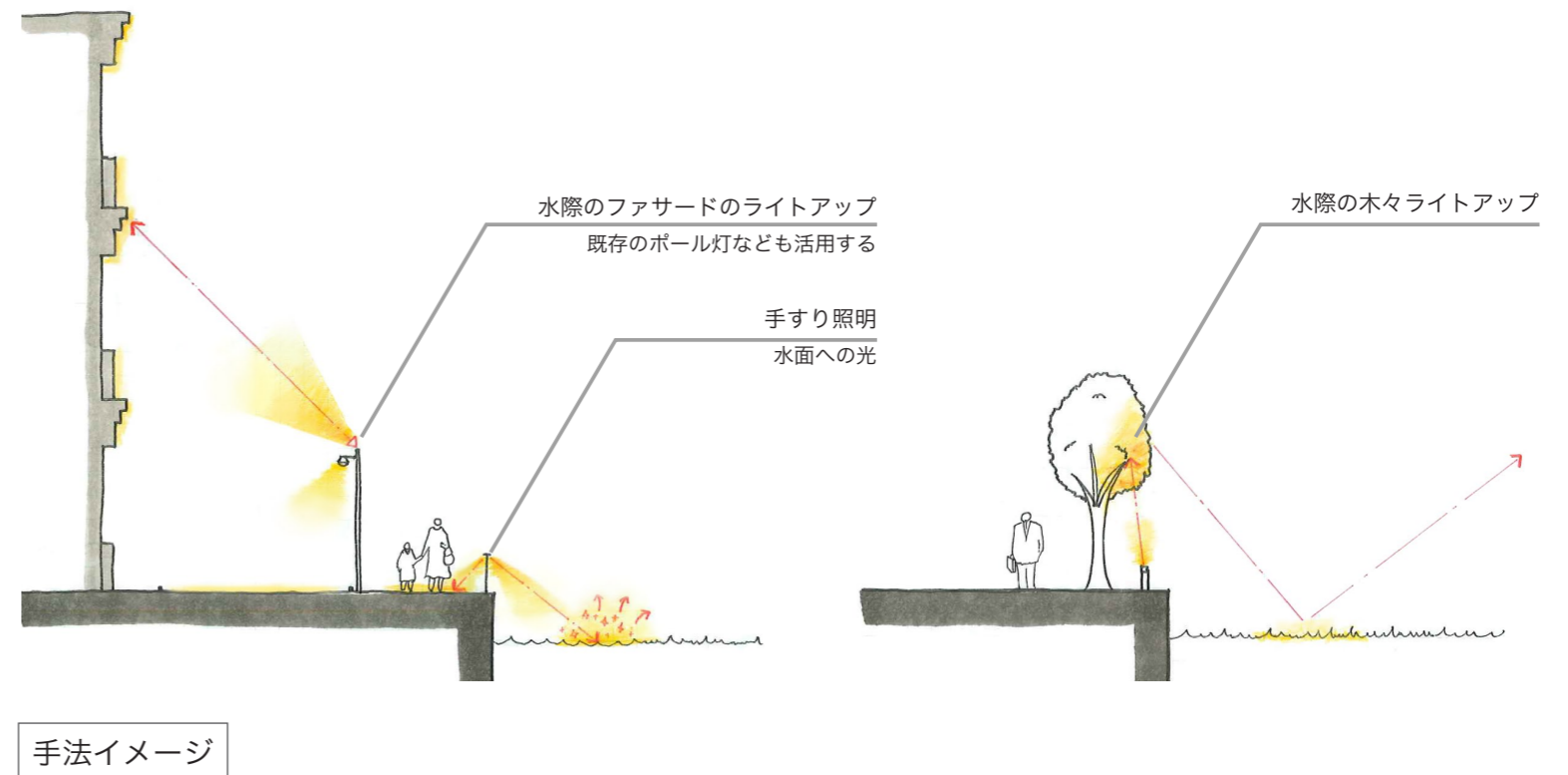
色温度を低く統一した道路が斜面市街地から浮き上がって見えます。

・水際線の顕在化

水面は光が映り込むことにより、反射する光を美しく輝かせる効果を持っています。港町の長崎ならではの魅力を生かすために、視線の中心にあるウォーターフロントを印象的な水景とするため、美しい映り込みを創り出せるような取り組みを推奨します。

(取り組み例)

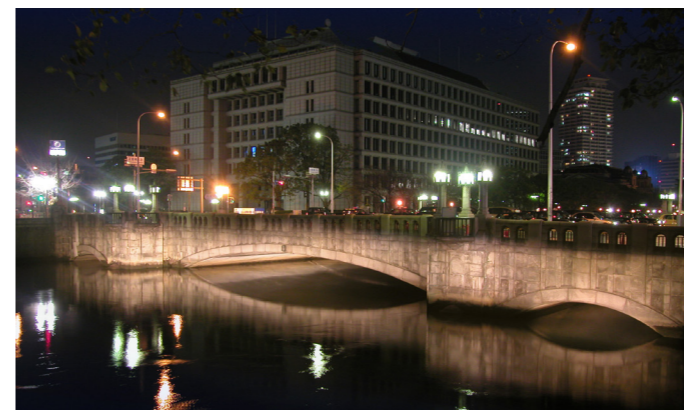
- ・ 水際に近い建物ファサードのライトアップ
- ・ 水際に近い植栽の整備とライトアップ
- ・ 護岸を活用した手摺照明
- ・ 橋梁等のランドマークの効果的なライトアップ



水面の反射を利用した演出照明の事例（大阪）



植栽や橋梁のライトアップと、水面への演出照明の事例（大阪）

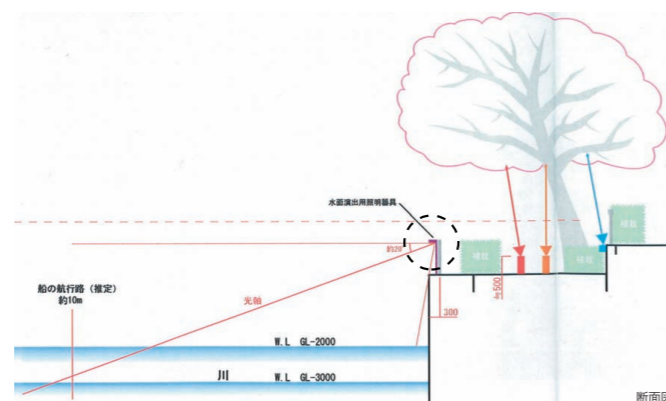
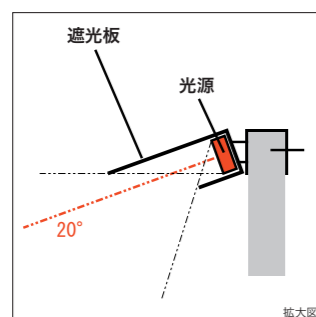


橋梁ライトアップの事例（大阪）



ライトアップされた建物が映り込んでいる事例（神戸）

護岸からのライトアップ手法



ライトアップされた建物が映り込んでいる事例（バンコク）



ライトアップされた建物が映り込んでいる事例（プラハ）

4. 夜間景観向上のためのガイドライン

4-2. 遠景の夜景みがき

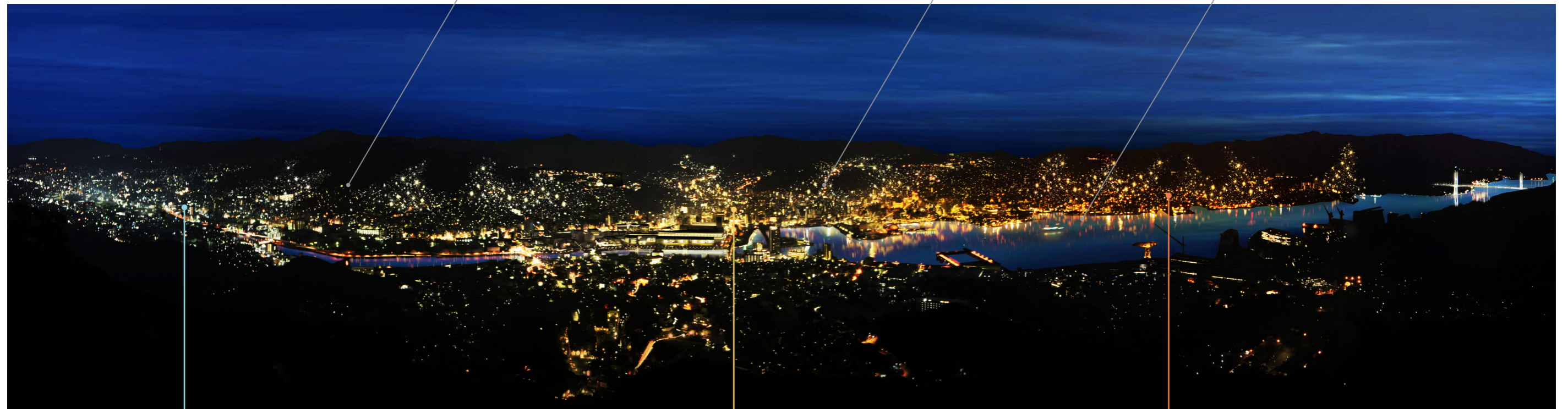
整備イメージ

全ての基本となる「長崎における都市照明のための7つの視点」や、「遠景の夜景みがき」に加えて、次章の「中・近景の夜間景観づくり」に取り組むことで、色温度などの表情が遠景においても感じられるようになり、美しいだけでなく、エリアの個性が感じられる魅力的な夜景を実現します。

現状（平成 28 年）



長崎らしい遠景が実現されたイメージ



斜面市街地の灯りの整備
長崎らしい街路照明（長崎灯）整備

斜面市街地の灯りの整備
アクセントとなる道路照明整備

水際線の顕在化

平和公園エリアにおいては、3000K 程度を基調としながら、清廉な印象を感じさせることを意図して部分的に白色（4000～5000K 程度）とすることも検討します。

一般的な市街地は、温かみのある 3000K 程度の色温度を基調とし、落ち着いた、居心地の良い光環境をつくる。

東山手・南山手エリアは、クラシカルな高級感を醸し出すため、ランプの色味に近い 2700K 程度の低い色温度を基調とします。

繁華街である春雨通り周辺エリアや、オフィス街である市役所通りエリアのように、活動的な要素があるエリアにおいては 3500K 程度まで色温度を高くすることも検討します。

中島川・寺町エリアなどのように、歴史情緒を感じさせる地区においては、2700K 程度まで色温度を低くすることも検討します。

4. 夜間景観向上のためのガイドライン

4-3. 中・近景の夜間景観づくり

取組方針

第3章で示したように、本市の中・近景の夜間景観には様々な課題があります。こうした問題の解決を図りながら、本市の強みでもある「歩いて楽しいまち」を夜間においても実現するため、3つのコンセプトと各重点エリアの景観的な特徴に基づき、エリアのコンセプトを設定し、「点と線」による魅力的な夜間景観づくりに取り組めます。

1. 基本原則の設定

「長崎における都市照明のための7つの視点」を基に、各エリアの実情に応じた「照明7原則」を設定し、地区全体で取り組むべき方向性を示します。

2. ランドマークの灯りの整備（点づくり）

文化財や景観重要建造物、都市景観賞受賞作品等のランドマークで、ライトアップが有効な建造物等については、照明施設の整備を推進します。

3. 軸線の灯りの整備（線づくり）

地区間を繋ぐ主な動線と、地区内のランドマークや各観光施設間を繋ぐ主な動線を設定し、夜間景観に配慮した照明施設等の整備を行います。

4. 夜間景観向上のためのガイドライン
 4-3. 中・近景の夜間景観づくり

図 重点エリアの区域

